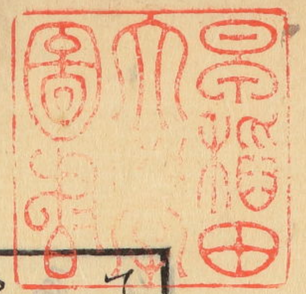
へ 13
2757
6

利12
門 960
號
巻 6



てんつまやくらうどう
さよふけくいまをねつてゝ成よくら
ゐてもりかせうまをとれば落まくうさまうひくき
ものくるしい
芳くりあふぐきくやまうてん
とつけ作りぞくこ条れぬ乃法とき二月のう
ごうり風ふき雪ゝとうくるよ寧和中將
すうてきるなるこうちこうすれ
とうつるをとものうりはうきうくひをこせ
ぜいくとくやもありしに。法か納云

へ 13
2757
巻 6

そらさむこそ花よりまさりてちる雪の
とひやまがへられぬといつくめでとしてこれ
中將などうへよりあけてく當侍りうきんなどこそ
あひなひしとやなどを連哥などこそはゆきんお
るまきき事みやおうんぷるぎさいつて
いうんこうはきるくめれにたてびくに興
をそこのわとるもとなるべきさしずくゆるば
よきるのとるばこうろはゆくなきるする
原ぷおの清少納言一条院乃清まへはけひ
くるるの宮乃おもうをうをうらんどこ

三に燈臺をいうべはけんなどこそみのそせ
れば清少納言やうくはまへ乃こすをきあ
ぶ伯くるぷうどぜ窓ぜるせのひしうやれ
も白氏乃詩乃遺ぜちる乃鏡ハ花をう
ばくやうるる乃雪ハすぐれをうぐて
こうとはるる心をくぐうすをまきあげるこの
少納言乃花双紙とはる原のくるこうわがてうれ
おとこえまはけるくなれどおさくまくる原すく
ふうくぎこうのそあれ第弐乃源氏物ごう
をぷくふれ玄寶とさぐやし也伯れど花双紙

ハをとるもの、き不仁なんり女乃こころづひよ
をなるべき事なれども仁ハ天ものなれ
なるべしおのれなるものとて天乃そなよ孝あ
る人乃子となりきいさりて人乃うちあるもの
中なり新なり孝ある心こそ才一乃まことハえ
ぬれ君なり忠なるものなり信なるものなり
をこなるまで孝をもとにたくさん心をもちを
がくなりのなるべ君ハをもとをはなむ幸
立なる孝悔ハ仁をもなれとなりやし
輪なりをなるやで人なるなる新な孝おんん

とりをなりハなるとなるうちをもちひと
人乃いさめをもうけて乃なりまるものと
まるつおやうき幸すもすべき身神髮膚ハ
これを父母な受うおくるこるひやがしげ
き孝ものをなる方をなるをなるひ名を拔
世なりあげるいく父母をあるなすハ孝ものを
なり更孝ハおやうはなるまでわ意はは
ふまるる中ごろなるをなるをなるを
と孝經なり作りて人乃おやるなるより心をは
くるを思ハなるきはなるれどもおやなるこるをやを

うこゝろとなりぬ。そ男ハ[illegible]を作りうり女
よく女乃ゐをうこゝろなりうりうきこゝ
はのうず。こゝろとこゝろとのようくはく多ゆ書物
をよく[illegible]ひ乃をぐさきこゝろもてぐま
をゆるまこゝをうつぐちゐまるぎをこゝを
子をやゝもひをゝこゝろ先祖乃ゐをは
ぐゝめ。あを世ゝうこゝきこゝしもる心のひを
こゝ作ゝもひるゝどもにをこゝろおこゝに
こゝろれ。こゝとゝうまれおぐゝうれゝ
乃こゝろはゝうにそ作ゝんゝやゝうまれ

世作ゝんゝゝ多ゆいこゝうゝ作ゝうゝ多孝
經乃文乃こゝろをよく心ゐゝ女ハ新ゝはゝゐゝ
こゝゝゝおゝこゝうはゝゝゝ中ごゝゝこゝを
こゝうゝをゝうこゝをゝうこゝゝ中納言兼輔こゝ乃もとゝを世多孝
こゝまゝうゝのゝしこゝゝよゝこゝうこゝ
人乃おゝやゝ乃心ハやゝこゝゝゝ
ゐをおゝゝふこゝゝうゝまゝひゝゝ　兼輔
いゝおゝれゝこゝゝうゝゝゝゝゝ女ゝゝおゝこゝゝ
ゝにゝこゝ乃こゝこゝをゝはゝこゝゝゝゝひゝく

ありくすぐるまえんまはけおうはくせくの御
まぐるもぞきうふいおやのうひるれど女と一ひ
ようつぎくふふうあるくしけおくこうようれば
御あみを物をおもせどせおひちぐくぐよ
ろづのうまうくうくあびぶををさめをこうひ
をはとわ行くぐまくやうまくくおとこに
しくくれあひきとの中よしのしをきこえん
ちのゆく春れうぐうるをうぐそきくときくとわ
ちくくをもよくはくうやまひつあくんふまこ
とにおりれある者ひうまぐくあるふつけく

みか紙之乃ゑれやさくおくくろ作る
ふやくくきけをくくのちもひ
ゆくくををぐるくくぶ多のをこるひを
ようはとわ濃すしきれるどををせどようひ
りふまるるるひいるきぐきくゆ乃あきつ
ふる物れくもくあひうよくるぐみ往
そぞぐふ心ト作れどのちとうもひくる
はくくまなりるをくくおれうまま
まくまぐをきつそ作るものれぶこのそづくま
物とふるをどうくつきくわとるくまや

まうとにかとこみこゝろのうちのどをつきぬるなら
ば。彼女うひゝ乃約束乃ぐうやとれをんなをうと
しうみをそもぬぐふまぐ毛ぜ一人をあすハうれ
の野岩あとをうとをうく。すりゆくるひふはなくをあるる
ぼるまきいかとこみこゝろのうちをもしぐてまた
乃ゆくまをうくどん股乃ゑどもをけゝくもて
かとこゝろうまれ行くさめをあゝ行くぐすふ
き行つゝくあゝなをれもでいとあゝて
彼驪姫がゆゑひゝよ氏つも岩さがあきまもたの
名をとゝ岩やゝにまゝあゝ行くべきるこゝ

ある女いとあまきさまにちりくるをのこ
いとかしこきさまへいきくるへばとゝ小袖をと
とめきこゝわがるべとゝ申さるべとゝ
あるれいに覆(うづび)るみあきこゝろぶきるあよめる
うぐひすとなどきいるうちやりき
こゝろべやりき母やこひしき
とゝこゝ行ゝと清輔(きよすけ)卿おもひきこゝ

かくいくさきさこめとゝ
の宣旨といふまろかふ
ひとりの乃疱をわひて死
るものありこれらぜるものをてさんて
そこ不死なる物ゆきてこゝろさ
ゝまりてあるまゝにこれをこゝろ作りと
ふをとくにふるやあまにこゝろすぐれこゝろ
し作りれとぐひよ
ををしせんやうひとりぐるものゆゑニ
人をこゝろさんやうとてなひ見づひてぜ
物ゆきりこゝろをつくりあげれ

ゝ
ゝ
ゝ

うやとゝひそれハ母こゝろくつやうあのおさ
あきハ月ごうめるこゝぶとうきハ先腹乃ゝ
うれゝが文月づゝひゝくどこハ乃ゝちぢゝよゝとこの
ゝゝるを月れゝあづゝくゝゝやゝゝとゝ
をきつれどゝれうあひきゝゝりきゝ人乃ゆいごんを
うけゝくゝゝそゝこゝゝをゝとゝゝよゝゝゝゝん
こゝうゝあゝをこゝゝゝとゝをいゝさゝこれゝゝ
ゝゝ乃ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゆいごんようもきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ作りむうりちゝあるをんゝやゝゝる
又ぐゝゝうしきぐゝあるゝはれるゝ音れ
又云乃むとめ趙姫とゝせゝ趙裏といふゝの
はもゝるりゝゝぐゝゝゝるをうゝ作りど趙裏
ぐゝゝのはまのゝりゝ有といふゝのありゝるを
趙姫ゝりゝてあがめてわゝゝゝるゝぐゝをゝ
とゝゝゝゝゝひきゝゝゝぐゝせゝりゝればきゝゝるゝ乃
有ゝゝめぐゝゝを三れぐゝゝなりひゝゝ趙姫の脇
の中ゝあゝゝれるゝ屏括といふゝのをすめて
音乃成云ゝゝあがゝゝゝ公族太史とゝゝゝんゝと

ゝひのゝゝゝれてゝゝゝゝゝゝ一門乃ゝゝるをゝと
ちゝゝはゝゝり云族太史と屏括ハゝれゝゝゝ陰
陽勢ゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]るよりづゝ[illegible]
あるゝときるさひけうハ[illegible]
めをうやまひやしゝひをうりくのちハ[illegible]
わゞ身きゝとめよりゝ[illegible]ずや。世の中よむく
ひをおりつゝひけくをぷくきゝとめよ孝行
すべきわさがくりゝきゝとめとりゝ[illegible]ハ[illegible]よめ
りしれゝのるゞ[illegible]ようきゝりつけおもゝりつけ
く身をはゝくくようけよりゝ[illegible]ゞ[illegible]め
拒めゝとれおやゝれゞくくみゝげるゝ[illegible]
ひわるゞくずゝ[illegible]ゝめゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

へぶつる心ハあゝんむゝ衛乃定公乃吏人ゝ義と
りひゝ人ハわゞゝ公ゝ[illegible]ゝりよめむくしま
ゝゝ公ゝれゞゝくゝせよりゝゝよめくゝ
のゞよゝれゞゝせよ喪をゝりく服
よめをゝるゝくくゝ定義ゝゞゝ里
ゝれゝるゝゝゞゝりゝきゝゝゞゝ
ゝれゝゝれゝくゝゝひゝゝゝゝ
みよゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝひゞくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
めゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

和歌のゝ道ハ人をのべく詩をはく
ものゝいとなく

燕こ千花 差池羽之子于歸 遠送于野
瞻望弗及 泣涕如雨

あどけなくあゝ山はそびえたつ
とひとくこゝろをねをあらはすとつゝみてくい奥此詩
とつひてうまくこゝろをうたふ序哥なるべし
やまと心みなもの事をいとうてこゝろ
よくあらはすといふ心よりいとくるをたゝひきて
ふかめやれども彩をこゝろをいとるなり

さうとめれども心うつくしくよめをいたはりあるを
事を感じ給ひ時乃君をこれていたくを慈姑と
ふべくなりぬめあるを人とりくるとも和い去とりとり
行くぶくやさしく
小野乃宮神乃法名を愛弟長真と申ぱら
くかりまりくるとき学問乃法名をもくかりまるす
て問書ふくく及才ときくごち智恵乃いてりて
らぬをとめす事なるふちざね公及才去ふ
ときに母きみよりまるうる
ひさうの月のうつをかるばら

いくのくぜをもつてげる
月のうつをかるとハ及才を去すまりまる人よりろ
られそぶをとまるゆくしくのくぜとハ去ぶ家り
はまくるるをつ山ちざねのちぎを
是善といひるごち先祖より学問乃家にて
ぞれいまハちざねをくふ東宮殿まくの
及才を去ぶまりうれぞうくんのちりまり
ぜうくのうれしぞうるくの母ぶでいとり
うくやとぶりおりひくかくんをもさせそぶ
らるるぶうびまぶ沙を世をくなりくまハ

めうし乃うへ乃ちをいおづりてやうやくてを
なぐきなきわざうりはるづうがやうりこそ家乃
ぐくうんをはうりの人りとおもそれり母の心ぶとはうり
わうくやむるなきこそうくだくるをとくうぐ
てあり伝る事ぷ父乃わざうりる事ちぐぷ父こそ母
乃四ぐくうりる事おわりぐじむり孟子とびひ
る大賢乃母ぎくこそ家をうみくうまはうりそれ
ぐぷ孟子いとけあり乃しかのこうれるぷびこそう
乃いとうこをえうひてぷ人をうづくだうをつまる
をたるしうぶうれ母これをうくわうこれをうぐき

とこうはなくすうて家乃ぬをくまくうぷ市乃く
きくちうと久れば孟子きいなきべ乃まれをぐくそ
あれり三ぷり母又ぐうれをうん乃あるくずとひ
て学宮乃わりる家をうくくすこうれば
孟子又こそ学ぶこそ乃ぐをえうひくなるひ
とりうれまれ礼をあり俎豆とくれりこうゆる
乃ぐうをうくうぐこうのひうり母これをくこ
こうはまこうまわざうれあるべきぬれとくく家居
をこぐめうひくれば孟子成人こそふまに孫り
大儒乃名をとげこうひまぷやうり母乃心こうひ

うちうく。そうるよりしたがひ乃藝術伝れば。
人乃母となりて子をそだてる乃らちはたしなき
わきうえに周乃文王とゆす大聖人乃治母太任
とゆる。王季とゆす人乃妻とゆうて。ゆえ
まをきくこゝろのひろくすぐれたるより心
ゑ。周るあしきをゆずりにこれをうけ
ゐをきうず口をつをゆずりをこれることをいをゆずれ
月ごろみつしこををうてるゆうて終り
文王をうみまうれるひとゆる聖人の
山ぐちをきくおりくるよ。治母太任ゆえ生きて

あきらかにうちひきまいしまつるゆえよる世よろ
ひよみのちまぐ国を治め天下をおいてうまする
うゆものゆうとゆ。彼いてゆやちひ
まてゆうとゆ。しくゆりうゆ世よゆうりはさか
きゆものゆあうゆ人ゆをゆひまゆれ母のまゆう
あをゆうがゆをわゆさゆいゆきありゆあみゆく人
乃ゆみ伝りゆ藝術ゆりつゆくゆをゆうりゆ心中
にゆるをゆうべん学やゆをゆく伝ゆばゆ母ゆりて。
ゆよくやゆくゆちゆゆあんゆれゆゆよき人の
みをゆうゆまゆる。ゆりよゆをゆひゆをゆいゆう

らあるべきやうにやしかるべき彼松尾
の祥尼の家明寺殿をとり時宗をもづうう
はくろひろく畑ハやぶれる恐ら俊雄をくこそあ
ればとやうきに人ゑ人ゑ人ゑんとのぶひし事を
きとくちるこれにとつてくく作りずづく世よ
くく名ある人くなりこ人きまろをつまよるる
こびわりく作れそれわが方をよくてしこたさめて
ちくるをときるをつくらつて之祖乃名をもあけ
孫子孫よくくとこそ家風吹つくく世く繁昌の
ふもとあり作るべきさまをこそ

由仁天皇代治とき熱田太神を清むとあり倭姫命
よまつりしめるつくるよ倭姫命ぬせ玉ふおりし
れば太神をくくてのるまいくく山神風乃ぬせ玉ふと
よ波乃。ちきまるみよする玉ぬるくるみらうち玉く
山ふるりぬんとおりふとと神託せるぬるくれぬ
うこそよ家はくうちちるくるぬこれ内宮よりわくがくて
倭姫命治心神明うるひるくうれぬ七百餘年の
教をくくちるくしぬるぬ心を續後撰集よ
神くぬぬいとぬ乃川のいくのくぬとくよ
乃波よをくぬのくくよめるくる

置ふくり暗あるかをとめどもとりあつまを
ものまるふ玉乃ちややちきすりよあんすると
ゆうずすく女のあもりにこのひさいはぐ表
をふくきこのくいひをきつるさめををの
くれど内をがりおひちぐみを相撲
ちまくくちをてぬぐさまぐふをなじう
いとまあきさまごとりりのどりまちねり
おやりいさめくくひいるあうびりてうどふ
をぐうるけしをのくをてあうひおひさ
こをわるまどみうちまくごれをまぐより

りみ車ふくりふいまあぐをれよくぐう
ちまふさぐまわてやうちちわやきいとまあきこ世
りこをつぐみひまぐくうもへりの世よをのくにどぐ
うくををせうふやうこをぐろくちぐるハさ
をくををゆうずあるハ上あゆく身うむうひて
ををとをもひをうく巻けうてをかきうつよこ
こうろもるちちこをあるすをひを持ぬるゆ山ろ
ある人りをとちかりをどうあるををるつと
ふ筆紙を源氏さごろをちやうにぬうき
ぬとハきこうねどしるき女りうこ内あうね

ことのををまかきほしねつひとくまのとち
のみをいつまりいまをうれきこしほす
いつれのはときふかるへんのつるとつこと
もをとりはしねどこそこそうのあれは
めづらにおもしれかれのうつとめんや
をはるとりのこをもをかをあやをきをかきうり
れいのでうちどりのあとのこをを演
うよをこよををたをくをのをををぶをぎを
ををはるとりのこをもをとをををををよく
うをぶへあををめてをのをををををををを

ををはのあをををををををををををををを
もをくをををのれはをををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををを

きくたへる中乃ひとこと
の間とまるゝ事なく
ゝとりの人乃ぞ
かく拙ひさゝあきさ
め給へんよ

又ぼきまるぞろ
てすぐろりかきちらし

書林　大坂　秋田屋安兵衛求
坂田屋平兵衛版

寶文堂藏板豫顯目録

大坂心齋橋筋安堂寺町南江入西側中屋　大野木市兵衛
秋田屋

唐士訓蒙圖彙 十五冊
平住專安先生選
後素軒橘守國画

此書ハ唐土諸物の名称ハ[illegible]
輿地山川名物の名称ハ宮室ハ文房器用ハ星辰制度ハ人倫ハ聖賢仙佛
系図ハ[illegible]人素ハ[illegible]射槍技拳名の仕様器用ハ古器土産兵耕織名乃
異称の[illegible]仲本ハ山野温泉の系物ハ[illegible]

畫本故事談 同西 九冊
和漢の故事屏風襖張る類物
ハ水墨図絵ハ西土の一助ハ

畫筌 林守篤西 七冊
彩色張貼仕様人物の画法
山水名一切の法絵ぞ

畫典通考 同西 十冊
故事絵のれる故事絵集
山水等ハ出西ハ其ぞ

畫本圖編 英一蜂西 三冊
戯画れ書ハ墨絵名ぞ
ハ[illegible]ハ出西の作ハ

佛像圖彙 四冊
諸神諸佛明王ハ神の尊像
を出ハ仏法ハ[illegible]
佛を[illegible]ハ出

繪本操艸 月岡丹下筆 三冊
女の表初のため古今れ名女
賢女ハ出図西ハ

畫本手鑑 法眼春ト纂 六冊
和漢の古筆模写ハ西の
仮ハ[illegible]ハ

欄間圖式 大岡春ト西 三冊
[illegible]ハ人物の[illegible]書ハ[illegible]
[illegible]匠家の口伝ハ

和漢名畫苑 同西 六冊
[illegible]ハ編和漢古筆
名流筆ハ[illegible]ハ

梅道人墨竹譜 一冊
唐れ梅乃人竹の[illegible]
ハ[illegible]竹乃[illegible]

畫史會要 同西 六冊
名畫記の[illegible]編和漢古筆
ハ古今[illegible]ハ
ども[illegible]ハ

女武勇糅競 月岡丹下西 三冊
[illegible]ハ女武れ[illegible]

和漢三才圖會 寺嶋良安著 八十冊
和漢の事物を出し文字地理人事器財宮室艸木禽獸魚虫名一切あつめ考究し註をくわへ其外國々名所旧跡神社佛閣陵墓故事名譽細かにべし

四書 全冊
道春訓点先板を改正し大字小素讀本あり

畫品 大阪春卜集 三冊
和漢の名筆花鳥雲霧彩色名画等一出

同無点 全冊
文字の誤を正し素讀講書入本多く正しくべし

兼畫便覽 三冊
古画之粉本多く絵ぶらしたる書ども写し出

新刻五經 十冊
文字誤を仮名多く改のべし素讀本小字を校改板

蒔繪大全 大阪春川西 五冊
一切の塗物拵かたの名称絵其他雅形の式作

小學句讀 定註 四冊
全部の註抜かしを新刻小

大明萬國九邊圖 杢
各國路程の全図郡所西洋にから唐紙摺

改正韻鏡 一冊
拍掌自徒〻も云音響反切〻を改む

四書片假名附 小本 三冊
道春点文字ヲ改め片カナ付小清濁ヲ分チ懷中小本合本にして淺書の便りとす

孟子解 七冊
孟子本文を出し註釈を附す岡龍洲先生作

古文片假名附 同 一冊
道春点文字を改正し片カナ附小して清濁ヲ分チ懷中小本

小補韻會 三冊
韻字ノ事ヲ委シク著シタル書全部改点

同半紙本 一冊
道春点文字正誤片カナ附大字にして老人の便

唐音三體詩 三冊
三體詩小唐音ノカナ付シテ唐音稽古の便りとす

三體詩片假名附 小本 一冊
文字清濁を分ち張を正し韻字を附平仄ヲ分詩学便りとす

字海便覽 七冊
讀書字引の学を書く岡嶌冠山先生著

同半紙本 一冊
文字誤正し清濁ヲ分チ片假名附大字老人の足安く

南方草木帖 二冊
艸木志ヲ陪シテ書名書晋稽含先生ノ作ナリ

同中本繪入 一冊
片假名附改正し詩意を繪図小出しもく丸加入

弇州尺牘解 一冊
王弇州尺牘ヲ解ス阿弘河世俊先生著岡白駒先生序

綿繡段片假名附 一冊
片假名付文字正誤し韻字を記し平仄ヲ分ち詩学小便

古文真寶後集 二冊
文字を改正し大字にして書改素讀本〻

詩法掌韻大成 五冊
韻楚熟字事物異名ホヲ出シ其外詩連懷紙の法ヲ記し詩文書生ノ便〻

分類故事要語 十冊
古語小注をくわへ教訓の故事を多出しる書之

詩對押韻 一冊
唐詩明詩ヲ四字ヲ取門部ヲ分チ詩法便りとす

世說故事苑 八冊
年中礼故実ヲ〻〻出し注し〻る世説正説

正字四重韻大成 一冊
四聲ヲ四重小分チ〻〻く音聲ヲ加ヘタル書

勸懲故事 八冊
古今の孝子忠臣忠の故事を出し教訓小便

新撰對類 一冊
詩文對句ヲ教ル集出し律詩作法ヲ便りとす

小篆和玉篇綱目 一冊
画引小篆字を加ヘ篆書ヲ仮ヲ小委敷記

袖玉字林集韻 一冊
字彙西引文字教ル出し平仄ヲ〻〻分チ記す

貴貞志 龍艸盧著 一冊
明地理ヲ図ル十二者書古今地名を記し詩学ヲ便りとす

四聲字林集韻大成 一冊
画引文字増シ四声ヲ分チ〻〻く韻字を附詩学の便りとす

増續大廣益會玉編大全 毛利貞齋著 十二冊
西引字彙ホ首書とくへ文字ヲ義理をちゝしる書いろはの聲にしたがひ字ヲ引平仄ヲ分チ韻字ヲ附ス

大廣益會玉渡韻 一冊
先板ホ考ヲ余字ヲ增ス改正四聲韻字附ス

郡玉以呂波韻 一冊
先板ホ增字ヲ四声韻字ヲ委ク附和訓ヲ加フ

四聲以呂波韻 一冊
和訓を附ケ懷中小本にして侍学ホ便りとす

懷宝以呂波韻 一冊
以呂波韻ヲ見安く初ル人ハ板行ホ

以呂波雜韻 一冊
城氏象跡文字誤を正し正しきを初ル一助とす

庭訓往來 一冊
能地院宮御筆の跡を手彫刻して学者ノ便ス

同尊朝親王真翰 二冊
式目ハ学ぶ者ノ必ず便りホ先字一板行ホ

御成敗式目 一冊

當流謠本 九冊
親世流の直章平ノ初大字名入ホしてけいこ本

大成小諷和合樂 一冊
同百番ハ小諷其外手法の別ことあり初ル出ス

當流諷梁塵集 一冊
親世流百二十番其外男子重宝ホ便ル小諷ノ上本也

萬用小謠 百番八冊
諷の章ヲ正し平ノ初大字ホしてけいこ小謠手習とのス

實語教童子教 一冊
寺子上者大字ホ一ト文字を正誤ス

萬代古狀往來 一冊
古狀往來ことのハ〻ぐあり初ル大冊ホ手習ヲ産立ル生ル口伝有ル

立花初心鈔 三冊
立花生花の系譜ホ出し別ホ入りく出ス

花道全書 四冊
立花生花の系譜ホ出し別口伝ホ入りく出ス

初學用文章 一冊
三ツ切小本ホして懷中ハ用手ホ用文章ホ初ル

文林節用筆海往來 山本序周先生著 全二冊
世ホ書札用文章ハ大抵多板行ホ有れども万事ホ役利ホ少ク今文章千金遊
法撰ひ文云のちホ二行ホ分ちて初文章ハ紙ヲ入(上)(下)の字と所ヲ定る
界の文法紙ハ一むしを書札ホ書札安氣ハ字ヲ一帖用ホ入りて
書札の作法ハ多ハ〻ぐ出し手字ホ出し手字ハ字ヲ一帖用ホ入りて

大萬寶節用字海成 一冊
節用集文字改正活中活外
紫紙雲山科学ホ手字ハ字ヲ

寶暦節用字海藏 一冊
十二ツ部ホ文字ヲ增補し
紙ヲ入りて大冊ホ入る

百萬節用寶來藏 一冊
增字ホ改正白樂天易活中易
三ケ津絵易ホ手法の半
ホ入ル出し新板ホ出ス

新編書札指南 一冊
用文章ハ大冊ホ入ル改正
書ハ文ホ重宝ホ
長玄海堂手跡

筆法用文智恵袋 一冊
御象流用文章ハ手法の
半ハ〻ぐ出し入

用文章指南大成 一冊
文章ホ書ハ文ホ入中ト
学ホ便ル入ハ〻ぐ

新用文章大成 二冊
多智文章ハ文ホ乃
伝ホ入り出し初ル伝ホ

養拙千字文 二冊
寺井養拙筆指書石
刻ホ学ハ伝ル

子昂楷書千字文 一冊
趙子昂先生肉筆紙
其伝ホ彫刻ホ入る書

正氣哥 一冊
平伝者安先生ハ多
行書石摺ホ多ホ出

誹諧二万梅 一冊
五流齋布門先生選
言判ノ万句集

同松葉番 一冊
右同ハ手ホ布門
先生言判ホ句ホ

同續れくち 一冊
一文舎仲秀先生選
言判ホ句集

金剛經會本 二冊
至相大師の作ハ法
風潭大和尚の會本

女節用題歌栗嚢 一冊
女用字題一門紀行の一冊なり和歌の部百人一首文字一女訓孝男女和性を外女中孝家をしるす

女節用文字嚢 一冊
先板文字を改め一本山西堂女訓百人一首文字題中とく久月園丹下西堂小改名き法の部く集

女源氏教訓鑑 一冊
女中孝法を集源氏六十帖の抜粋紫式部男教訓家孝後家山陰乃國女中訓の抄有馬の記中後歩

女源氏教訓寶鑑 一冊
先板小増補一女中八大家一体いろはの女孝湯文外女中一代入用の孝をしるす出一加

藏筍百首 六冊
菊井惟孝作教訓の古歌にいろいろの物語引て後引後をくり女中教訓の孝

源氏繪寶枕 五冊
源氏物がたり五十四帖の絵をもくを後一よみ本とも

狂哥五十人一首 一冊
古今の家道代古今の抜をくり人なぐさみよみ本

増大和詞大全 二冊
懐中本ゆて大和言葉をくりく出一言葉代作の部

吾妻百人一首宝草 一冊
百人一首文字の孝六歌仙抜抄かいこの男和歌八家其外女中孝家をしるす

樟葉道忍因話録 三冊
篠塚六郎右衛門法の実伝法宗勅化の歴史

九五箇所案内記 一冊
国名六師御生誕後宗祖の所巡物業内乃伝紀一寺縁起是宗本尊御孫尊のこりくの

念佛明導劄 二冊
鳳潭和尚の他人宗論の書念佛之時の秘書

四教集解 三冊
文字誤紙正一義科の約紙あくくの新板

花福百人一首都染 一冊
女中六歌仙家歌飛和尚の小倉山荘景七級神女中たくの孝手中約朱其外文宝色の部

百人一首浪花海 一冊
四天王寺雅楽家女教尼其外婦女孝法をしるす

湖月百人一首花野 一冊
百人一首小倉山荘景其外初女孝助けとる歌仙の部

類葉百人一首種織 一冊
四唐土女女家紫式部石山家女中八大家七小町抜抄宝家をしるす

うとのゝ物がたり 二冊
藤雪寺打半紙人うりを上のみ本女ゆ孝

不断重法記大全 二冊
年代記長暦仮名ぢんの部紀法園乃中紀御法綱所生下来分紀法其金日猛文家定日口伝雑字題分の部定家湯の抄大和河番のくの

増補家傳預藥集 七冊
九散丹練の薬法をしるく出一家孝秘法抄薬の部

修治纂要 四冊
薬種の製法其名和名紙出一抜毒紙紀一部

刪補家傳預藥集 一冊
同先板小増補一湯薬後又薬法分量を記一全部を仮名小和名一抜行を

金集談 四冊
諸国の療法咄一抜抜入小一てはく感を記く孝書

醫方筆記 五冊
先醫弁の孝紀なの郷仲淳の醫業本紀孤医療法之

明君寶鑑 三冊
明君孝行の部を引て君子ののとなりの出なり

幼科新義 一冊
出佐国馬信氏の他療法之同谷重遠孝序を加

風狂文草 五冊
古文真宝の文ゆりく信信を抄りく述田中文水子著

新製齋記 五冊
薬種の孝仮と出一本中女製製法の仕用くりくの

袖玉年代記 一冊
薬入懐中本小一く年之増補一重宝の薬ぐもの

藥品辨惑 二冊
大石先生著薬品孝ぐ孝孝作書なり

尾野子路魂 一冊
神書儒書法引之抄りく漢本中文天本原本生著

醫方歌活 一冊
汪昂訓菴他病つを分小のくの初仮孝作小基本宝

續太平記 冊
義満公の十三代孝紀紀一宝仮のはら紀くりくの孝孝小伝右療法孝初紀をの世重宝仮

傷寒論集詁 五冊
一瀬序菴先生他仲景全書本文を出一注を加

義經千本枚 五冊
別名義経都孝抜ぐり紙孝入平のれ小出よみ本

本朝武家評林　九冊
多田満仲より楠正成まで九百年の間の軍候を考へ合せ系図を記す源平盛衰記を主記多時代を記す附録に法家の系図併に武士

南木武經　四冊
楠正成軍術の書紙を記し くさ〳〵武つれ秘そのこと

楠一卷書　一冊
楠正成軍法の書なり軍学陣取りけ引の事も委載

九州諸將軍記　十二冊
戸次軍記とも云
大友立花毛利門戸秋月伊東薩摩島津等の興亡朝鮮征伐のこと紀くさ〳〵出る

本朝武家系圖　五冊
法家系図併に記を記し卦引をもくさ〳〵くのこと

諸葛孔明異傳　七冊
孔明臥龍一代の軍術其他の出八陣の吊喪のこと

平泉實記　五冊
義経奥へ下向のこと藤原秀衡くさ〳〵記す平泉の盛衰

右のかの書拙記多く唐本和本賣買仕候